北海道建築士
HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2024.03.No319
3月号

目次

2023年度北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座（第９期）と関連事業についての報告……1
前実行委員長退任挨拶……4
女性の窓……6
［No.112 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会］
Coffee Break……7
information……8

URL　https://www.h-ab.com/

2023年度北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座（第9期）と関連事業についての報告

ヘリテージマネージャー特別委員会 委員長　杉　山　友　和（札幌支部）

「北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座」は北海道建築士会を含む４団体にて組織された「北海道文化遺産活用活性化実行委員会」により実施され、運営資金は文化庁の補助金を利用しています。第９期となる昨年2023年度は、７月から10月まで計13回の講座が行なわれ、道内でご活躍されている講師陣を中心に地域性を踏まえた充実した講義が展開されました。新型コロナウイルスに関する制限解除はされましたが、遠方からの受講者対応も踏まえ、講座は一部の講義を除きウェブ（Zoom）を用いたハイブリッドで行っております。

本講座は、建築士・学芸員等の有資格者を対象とする受講時間60時間の「ヘリテージマネージャー（ＨＭ）コース」と、上記等の資格を有していなくとも文化財へ興味をお持ちの一般の方を対象とする受講時間30時間の「ヘリテージコーディネーター（ＨＣ）コース」の２コースより構成されており、昨年度の受講者数はＨＭコースが８名（うち修了生６名）、ＨＣコースが６名（うち修了生４名）の計14名（うち修了生計10名）となっており、年齢的には建築学部４年生から70代の方まで、男女も問わず幅広い層に受講いただいております。講義内容は歴史的建造物や歴史的地域資産の散逸・取り壊しを防ぐために、それらの文化財への登録方法や保存活用を学びます。講座はほぼ座学ですが、一部は「北海道開拓の村」に保存されている屯田兵屋を教材とした建物の調査を行う実習も含まれています。また講義とは別に、受講生を数名毎のグループに分け、各グループ毎独自に興味のある歴史的建造物を見つけ、その建物の調査の実施・調査結果の発表まで行ってもらう実践的な講習も行っております。

また本講義のほか、次の講習会等も開催され、多くの皆様にご参加いただきました。

講義初日の様子

グループ実習最終発表の様子（Ａ班）

グループ実習最終発表の様子（Ｂ班）

ヘリテージアドバイザー講習会（１回開催）

修了生を含むＨＭ・ＨＣに向け、歴史的建造物等の保存活用に関する全国の実践的な取り組みに触れる機会として主に開催される講習会です。12/2(土)に「熊本における災害（震災・水害）と歴史的建造物とヘリテージマネージャーの役割-Part.2」と題して、伊藤龍一氏（熊本大学名誉教授・熊本県建築士会会長)、山川満清氏（熊本県ヘリテージマネージャー会議代表・熊本県建築士会まちづくり委員会委員長）の２氏に、前回の2021年に続き、ご講演いただきました。2016年に発生した熊本地震後の歴史的建造物に関する調査や災害対応事例をご紹介いただき、災害発生時の歴史的建造物の調査体制構築の大事さを改めて感じた講義でした。

フォローアップ講習会（２回開催）

修了生を含むＨＭ及びＨＣの資質・技術的能力の向上を目的に開催され、今回は、10/14(土)に厚真町にて「町の歴史を聞き、古民家再生（枠の内）を見て、2018年北海道胆振東部地震からの５年を知ろう！」と題した現地視察及び講演と、11/3(金･祝)に小樽にて「北海道の心臓と呼ばれた街・小樽、その歴史舞台を活かした現在を見る」と題したまちあるきと講演を開催しました。厚真町での開催においては、５年前に発生した北海道胆振東部地震の痕跡とその後の建物等の復興状況を講師陣に解説いただき、改めて震災被害の甚大さを生身に感じました。また厚真町で発掘された貴重な縄文遺跡埋蔵物群も見学させていただき、厚真町の歴史の深さも知る事が出来た充実した講習会となりました。

厚真町：移築古民家ホテル見学（旧幅田家）の様子

小樽市：まちあるきの様子

普及啓発事業（２回開催）

主に一般市民の方々に向け、広くヘリテージ活動の普及啓発を目的として行う事業です。8/26(土)・27(日)旭川にて、9/30(土)・10/1(日)には札幌にて開催し、講演・フォーラムと歴史的建造物見学を行いました。

厚真町での「枠の内」見学風景

普及啓発事業（旭川）旧岡田邸

普及啓発事業（札幌）フォーラムの様子

旭川においては歴史的建造物の登録手続きや建物の維持管理の課題、札幌においてはＨＭ及びＨＣが今後どのように歴史的建造物の保存活用に具体的に関わっていくのかを、事例を交えながら、講師陣及び参加者が意見交換を行いました。

特別講演（１回開催）、登録式、交流会

本講座修了生を北海道ＨＭ及びＨＣとして登録を行う登録式を11/25(土)に開催、合わせて角幸博氏（北海道大学名誉教授・北海道文化遺産活用活性化実行委員会会長）による「北海道の歴史的建造物とこれらを担う北海道ヘリテージマネージャーに期待されること」題した特別講演をいただきました。登録式終了後には、本講座第１期修了生から今年度修了生と講師の先生方を交えた交流会を初めて開催し、本講座修了後、ＨＭ・ＨＣのスキルを発揮できる場を探すためや情報交換出来る場の設置を目指し、修了生間のネットワーク構築の必要性を議論しました。

建築物の劣化度調査実習

歴史的建造物に関わらず建物の劣化度調査の具体的な方法を学ぶ講習会を、6/24(土)「北海道開拓の村」にて東出憲明氏（INDI㈱代表取締役社長）を講師としてお招きし、実施しました。

歴史的建造物に限らず、建物の寸法の測り方や傾きの計測方法など、基本的な劣化度調査方法を学ぶことが出来ました。

特別講演の模様

東出氏による調査方法の実演

登録証交付の様子

事業委員会

退任にあたって

前委員長　**丹波　泰哉**（千歳支部）

事業委員長をお引き受けしたのはちょうど新型コロナウイルス感染症が世界的流行となった頃でした。委員長に就任して初めての委員会がいきなり緊急事態宣言により中止になったことをよく覚えております。その後も過去に経験したことがない出来事に翻弄され、寂しい思いをした あっという間の４年間だったなと振り返ります。

事業委員会では令和３年度より新たな活動「特別活動費の助成に関する業務」を開始しました。コロナ禍ではありましたが、現在までに６件応募をいただき、その事業に対して選考業務をおこなってきました。助成が決定した事業の中には、全国大会にて賞を頂いた事業や継続して開催している事業があり、微力ながら支部事業活動の推進に貢献することができたと思っております。この「特別活動費」が活動再開のきっかけとなり、支部活動が活性化されるものとなるよう、今後ともお役に立てる活動を次期委員会に期待しております。

楽しいところには人が集まってきます。人が集まれば新しい流れやアイディアが生まれます。自らがその活動を楽しむことにより、人が集まり人の輪が広がりつながっていき、発展していくものだと考えております。今後も士会活動を楽しんでいきたいと思います。

情報委員会

５期10年

前委員長　**森　勝利**（日高支部）

2013年も残すところ１ヶ月といった頃だったでしょうか。『副委員長を引き受けていただけないか』という１本の電話から、まさか、５期10年という長い付き合いになるとは、夢にも思いませんでした。

昨年、一昨年と委員長を引き受け、現在、50歳。40代は、情報委員会とともにあったということに。会誌で言うと、2014年１月号№197から、2023年12月号№316まで、昨年８月発行の創立70周年記念号を加えると、携わったのは、計121冊になります。

活動の中で、印象に残っているのは、2019年の全国大会北海道大会（函館）での「号外」発行です。2014年の全道大会旭川大会から始めた事業ですが、全国大会での発行は、想定外でした。それでも、北海道独自の取組に好評いただいたものと記憶しています。

対照的に、もう１点が、コロナ禍。行事がすべてなくなり、全道大会網走大会も中止、記事のやりくりにたいへん苦労しましたが、発行を継続できたのは、寄稿者のみなさんはもとより、事務局のお力添えあってのものです。

あらためて、感謝申し上げます。

～ Old soldiers never die, They just fade away ～

まちづくり委員会

２期４年間を振り返って

前委員長　**清水　浩史**（札幌支部）

2020年から２期４年間、まちづくり委員長を務めさせていただきました。ちょうど４年前の本誌で就任の抱負を述べましたが、間もなくコロナ禍に突中・・・１期目２年間は全くリアル活動ができない状況でした。しかし、各支部の皆様にご協力いただいた「まちづくり活動事例集」の作成や、まちづくりゲームをアレンジしたオンラインワークショップの開催など、委員みんなで協力して工夫しながら活動をしてきました。

そして２期目は、やっとリアルで動くことができるようになり、まちづくり会議、まちづくりフォーラム、全道大会Ｂ分科会と本来の活動が戻ってきたわけですが、オンラインを併用することで、以前よりも密にコミュニケーションをとれたり、リアルで集まった時の充実感が増したりもしたと思います。この経験を活かして、より活発な活動につなげていければいいですね。

この４年間、支えていただいた委員の皆様、理事、本部の皆様に感謝申し上げます。そして、会員の皆様には、まちづくり委員会活動へのご参加・ご協力、誠にありがとうございました。私は、今期もまちづくり委員会には残っておりますので、引き続き、「まちづくりの輪」を広げる活動へのご参加のほど、よろしくお願いいたします。

災害対応委員会

理想と現実

前委員長　**金谷　祐**（小樽支部）

２年間、委員長として委員会活動をさせていただきました。ご協力いただいた皆様、お世話になりました。ありがとうございます。

応急危険度判定の講習会の開催を主軸にし、応急危険度判定士の普及に努めています。また、判定士のネットワークの整備を進め、道庁の担当部署からの情報を提供してきました。２年間の地震情報を振り返りますと、2022年１月父島近海の地震最大震度５強、2022年１月大分・宮崎の地震最大震度５強、2022年３月福島県沖の地震最大震度６強、2022年11月茨城県南部の地震最大震度５強、2023年２月北海道釧路沖の地震最大震度５弱、2023年５月石川県能登地方の地震最大震度６強、2023年５月千葉県南部の地震最大震度５強、そして、2024年１月石川県能登地方の地震最大震度７。今回の地震では、道庁より民間判定士の派遣に備え、人員名簿の提出依頼があり、ネットワークを活用し人員を募り、名簿を提出しました。被災地で何かの役に立ちたいとの思いはありますが、本業もおろそかにできない現状で、歯がゆい思いをしています。いつ起こるかわからない災害に対し、建築士会の組織力は今後大きな役割を担っていきます。自分に何が出来るか、考えていきたいと思います。

青年委員会

２年間を振り返って・・・。

前委員長　**佐々木　強志**（北見支部）

昨年の12月までの２年間、青年委員長を務めさせていただき、すばらしい委員会のメンバーに恵まれ、たくさんの出会いや良い経験をさせていただきました。

しかし、委員長になった２年前は、まだコロナによる自粛ムードが漂う中で、本当に活動していけるのだろうかと不安な気持ちだったことを思い出します。最初の３月の全道青年委員長連絡会議は、ZOOMを使用してオンラインで開催しましたが、その後、５月に室蘭で開催した青年建築士の集いは、参加者に抗原検査を行ってもらい、３年振りに対面で開催し、さらに懇親会も開催することが出来ました。久しぶりにリアルな青年建築士の交流が再開出来たことは、２年間の青年委員長の任期の中でとても思い出深い出来事で、集まることの大切さを実感し、再確認したイベントでした。それからの活動は、コロナ禍以前のような活動がだんだん出来るようになり、予定していた活動はすべて実施することが出来ました。これも、青年委員会の委員や事務局、統括理事をはじめ、活動を後押ししていただいた会員の皆様のおかげだと思っています。本当に感謝しています。最後になりますが、次の青年委員会の皆さんのご健勝とご活躍を祈念したいと思います。２年間、ありがとうございました。

ヘリテージマネージャー特別委員会

かけがえのない風景とその彩り

前委員長　**川原　昌彦**（札幌支部）

2014年、第１期の受講生としての出発から、第２期以降は講座運営の実働面での中心的な役割を担い、そして、2020年からは委員長を務めさせていただきました。この風景は今や自分の一部となっているといえます。

計60時間のヘリテージマネジメント専門職育成講座や、その修了生へのフォローアップ事業などの舵取りは非常に過酷なもので、過大な作業量に精一杯取り組む日々でした。さらにコロナ禍や、連合会、全国HMN協議会の活動も加わり、時に自らを犠牲にし、非力ながらも奮闘してまいりました。

その中にありながらも、自治体の依頼で古民家の歴史的調査に携わったことは新たな視点を開く刺激的な経験でした。

2023年に第９期講座を終え、現在の修了生は計208名に達しています。その出会いと交流は、他に類を見ないかけがえのない風景で、これまでの苦労を彩りあるものに変え、そして誰かのために尽力できる喜びを感じさせてくれます。

委員長を退任いたしますが、これからも一委員として、新たな体制が風景の彩りを一層豊かにしていくことに期待し、次なる旅路が素晴らしいものとなるよう、同じ風に吹かれながら前を向き、希望の光を見据えて歩んでいきたいと思います。

これまでのご支援に心より感謝いたします。ありがとうございました。

地域貢献活動センター委員会

“活動自粛の波を受けて”

前委員長　**鈴木　徹**（十勝支部）

私が委員長に就任しましたのは、４年前の2020年でした。まさに新型コロナウイルス感染症が発生した時期で、世の中に何が起きたのだろうかと困惑していたことを思い出します。それから約３年間、建築士会活動は、活動自粛との闘いとなり、各支部からの活動報告では「新型コロナウイルス感染症の為、事業は中止しました」の報告ばかりとなり、当然ですが地域貢献活動も止まってしまいました。この間の活動助成金の申請はなく、とても歯痒い思いでした。2023年の５月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類に変更となり、多様な活動が再開され、２件（札幌、十勝）の助成金申請が届きました。私にとっては初めての審査でしたが、無事に活動に対して支援することができ嬉しく思いました。委員長の役目も終えた2024年１月１日に能登半島地震が発生し、多くの被害が出ました。災害に対しての地域貢献は、応急危険度判定を含め日頃からの準備がとても大切であることを再認識させられました。地域貢献活動センターでは、建築士会会員が地域住民の活動の中で「建築士」として役に立つこと模索し、参加している活動に対して支援する委員会です。助成金には限りがありますが、この制度を積極的に活用して地域に貢献していただければ幸いです。

がんばろう！能登“頑張れ、能登半島”

令和６年 (一社)北海道建築士会会員作品の募集

応募対象

①対象建物

令和２年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。

②対 象 者

本会の正会員（応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限ります）

③応募作品　　１人若しくは１グループで１点とします。

所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

応募締切

令和６年５月24日（金）　必着

応募資料

①申 込 書

所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。

②提出資料

図面（平面図・断面図・配置図等）及び完成写真（内・外装）等の画像データ３点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。（応募作品は返却しません）

作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から４点程度を選考し「北海道建築士№325」に掲載します。

※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。

No 112

HOKKAIDO 建築士会 女性委員会

工業高校ワークショップ
～『旭川市の「とき」に映える新庁舎 part2』～
もうすぐ完成：見学会　施工技術のすご技解説付き

齊藤　裕美（旭川支部）

建設業界や設計分野も含め、若手の担い手不足の問題から建築の楽しさ、素晴らしさを伝えたい、という思いで始めたこの事業も、今年で10回目となりました。昨年に引き続き旭川新庁舎新築工事第２段として、前半は施工に関わった方のお話や映像を視聴し、そのあと質疑タイム、後半は現役建築士と一緒に、１階エントランスホールの土・日・祝日の活用方法を考えるワークショップを３つのグループに分かれて行いました。ゼネコン、市役所、設計事務所とさまざまな職種のスタッフが各々の普段の仕事紹介をし、生徒の進路の参考になったのではないでしょうか。

各班のアイディアをリーダーに発表してもらいましたが、広場に雪像を作り雪まつり会場として参加、ｅスポーツやスポーツ観戦などのパブリックビューイングを企画、休日の執務スペースとの間のシャッターを利用した映画鑑賞、大道芸人や屋台を広場に呼ぶ、新しくできた庁舎をゴールに街歩き、買い物公園のクーポンを使えるようにする、など学生らしいアイディアが出ました。

ワークショップの様子

旭川新庁舎

アンケートの回答からは、「普段の授業より実際の現場の映像や写真、働いている人の声を聞けて分かりやすかったし、新しいことを知れた。良い経験になったので次回も参加したい。学校の先生以外の大人の方々とお話しする機会をもっと作っていきたいと思った。今回を通して、改めて建築のすごさ、カッコよさが分かったので、これからも勉強を頑張っていこうと思いました。」など嬉しい感想をたくさん頂きました。来年も女性、青年委員垣根無くこの事業を若い世代に引き継いでいってほしいと思います。

「札幌市民防災センター見学会」

新海　直美（札幌支部）

2023年６月３日、札幌市民防災センターにて体験見学をしました。札幌支部の女性委員会では以前にも見学会を開催したことがありましたが、2023年４月のリニューアルオープンを機に、再度訪れることになりました。

この施設には、災害バーチャル体験、地震体験、救急体験、消火体験、煙避難体験、暴風体験と６つの体験コーナーが設けられており、それらを体験することが参加の大きな目的でした。全てを体験することができましたが、中でも地震体験が一番印象に残りました。

東日本大震災や北海道南西沖地震など、これまでに起きた地震を含めたいくつかの設定があり、１つを選択して体験することができるようになっています。その中には札幌直下型震度７を想定した揺れという設定もあったので、それを体験してみました。これまで私が体験した遠方で起きたゆらゆらとした揺れとは異なり、突き上げるような激しい長い揺れで、札幌でもこのような揺れが起こり得ると思うと身の引き締まる思いがしました。

また、消火体験では消火器の使い方を、救急体験ではAEDの使い方を学ぶことができ、これらは定期的に体験し、慣れておく必要があると改めて認識しました。

今年は年明け早々に能登半島で地震が起きました。被害は甚大で、救援の手が届くまでにとても時間がかかっていました。災害の規模が大きいほど、自分の身は自分で守らなければならないということを強く感じています。札幌にお住まいの方はもちろん、防災学習施設がお近くにある方は体験してみていただくと、どう動くと良いかのヒントが得られると思います。多くの方に体験していただきたいです。

はしご車の前で

消火体験

釧路支部　第19回「啄木・雪あかりの町・くしろ」

支部長
香川　博

明治41年１月21日は、石川啄木が初めて釧路の地を踏んだ日です。その日を記念して開催されるイベントが「啄木・雪あかりの町・くしろ」。今年で19回目を迎え、１月27日に行われました。啄木が旧釧路駅に降り立ったその日の夜は、雪が５寸ほど積もり、厳しい寒さだったそうです。啄木はその雪を踏みしめながら、旧北大通、初代幣舞橋を渡って着いたところが「釧路橋南西部地域」。当時、この辺り一帯は、啄木の下宿や勤め先の旧釧路新聞社（現在の北海道新聞社）があり、商店、郵便局、病院、料亭、遊郭等が建ち並ぶ、釧路の中心地でした。この地域で啄木は編集長格として朝から晩まで仕事をし、夜は夜で毎日のように料亭に通い続け、釧路での重要な二人の女性、小奴と梅川操とも知り合いました。

今回のイベントでは、啄木・小奴に扮した二人（二人とも釧路信用金庫の方です）による開会式（啄木短歌表彰式、点灯式）、くしろ啄木一人百種かるた会、当支部が中心となって作成したアイスキャンドルが灯すアカリノヒロバ、当支部が担当したホットミルクやミルクカクテル等のふるまい及びアイスクリン作りのワークショップ、くしろ小学校の皆さんが書いたメッセージキャンドルの展示、明治時代以降の変遷が解る古地図の展示、地元の方々の協力による様々な食べ物を提供するアジノヒロバ等の催しがありました。

啄木が来釧した頃の釧路郡の人口は１万７千人弱で、まだまだ小さな町でした。その頃の北海道の３大都市、函館、小樽、札幌のそれぞれの区の人口は、９万８百人、８万８千人、６万２千人を超えていました。（明治39年末の人口：釧路新聞社発行「郷土史巷談明治四十年・釧路」による）

啄木は、１月28日の日記で「佐藤国司氏や社長が、三月になったら家族を呼び寄せるようにして、社でどこか家を借りてくれると云ふ。自分も、来てみたら案外釧路が気持ちよいから、さうしようと思ふ」と釧路の事を書いていましたが、滞在76日目の４月５日、逃げるように釧路を離れました。

来年の「啄木・雪明かりの町・くしろ」は20回目を迎えます。全道の会員の皆さん、啄木が降り立った「さびしき町」を静かに照らす灯りを見ながら、その当時の啄木に思いを馳せてみませんか。

アイスキャンドル作り

啄木・小奴に扮した二人

アイスクリン作り

アカリノヒロバの様子

北空知支部　2023全道青年サミットを振り返って

青年委員長
舘岡　英司

北空知支部青年委員会で委員長をしています舘岡です。

年々規模が減少し青年委員14名で細々と活動をしていますが、近年はコロナ禍の影響もありビールパーティーやレクリエーションなどの事業も開催できていない状況で、今後の委員会の存続も心配しているのが現状です。

そんな中、昨年９月１日（金）に北海道建築士会全道大会青年サミットを開催する機会がありました。青年委員が９名も運営に当たる事ができ、まだまだ、元気に活動ができる事を示せたことにほっとしている所です。

青年サミットですが、来賓の方も含めて日本各地から約70名の参加をいただきました。「つなぐ、つながる建築士会」をテーマとし懇親を深めることができ、大変貴重な体験をする事ができたと共に、心配されていました感染症も発症される方がいなく、無事会を終了する事が出来ました事に改めまして感謝いたします。

また、サミットの中で企画させていただきましたビンゴ大会も、にぎわいがあり、笑いがありと皆様のご協力でスムーズに進行する事ができ、目的の一つでもあります深川を含めた１市４町のお土産を知ってもらえる機会になり、参加された皆様に喜んで頂けていれば幸いです。

さらに、サミット終了後の２次会におきましても約60名の参加をいただき、感謝の言葉しかありません。

一期一会の出会いを大切にして、各支部との情報共有を密に行える事を期待しまして、振り返りとされていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。

青年サミットの様子

お土産

ビンゴ大会（景品）

ビンゴ大会（抽選）

道士会の動き

本部の主な会議報告（２月）

◆第１回ヘリテージマネージャー特別委員会
〈開催日〉６日(火)
1）北海道ヘリテージ・マネジメント専門職養成講座事業開催運営
2）歴史的建造物の調査
3）『「文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会」事業』に関する実施に向けた取り組み
4）（仮）歴史的建造物委員会を建築士会内に設置することに向けた準備会の開催
5）ヘリテージマネージャー・コーディネーターのネットワーク組織の在り方の検討会の開催
6）連合会「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定調印」に伴う検討
7）登録更新（第５期）への対応
8）その他

本部の主な行事予定（３月）

◆第１回総務企画委員会
〈開催日〉１日(金)
◆第１回女性委員会
〈開催日〉２日(土)
◆四役会議
〈開催日〉７日(木)
◆第１回理事会
〈開催日〉13日(水)
◆第１回災害対応委員会
〈開催日〉23日(土)
◆令和6年全道青年委員会連絡会議
〈開催日〉30日(土)

関係機関等会議参加予定（３月）

１日(金)　東北ブロック会（仙台）
11日(月)　CPD・専攻建築士制度委員会（東京）
14日(木)　日本建築士会連合会理事会（WEB）
21日(木)　日本建築士会連合会役員候補者選考委員会（東京）
25日(月)　専攻建築士認定評議会（東京）
上記　高野会長

講習会・セミナーのご案内（３月）

建築士定期講習
６日(水)　札幌市、北斗市

監理技術者講習
13日(水)　札幌市

ＣＰＤ認定プログラム（２月認定）

◆JSCA北海道支部「道北サテライト勉強会2024」
《日程及び会場》３月１日(金)　15：30～17：30
旭川勤労者福祉会館（旭川市）
《単位数》　２単位
《問合せ先》
(一社)北海道構造技術者協会北海道支部
道北サテライト　TEL　0166-76-7816

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！

■**視聴方法**：北海道建築士会ＨＰの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
■**３月パスワード**：Isi041

■ 会誌発送方法のお知らせ ■

これまで会誌を送付していたヤマト運輸㈱の「クロネコＤＭ便」廃止に伴い、今月号（令和６年３月号）より、ヤマト運輸㈱の「クロネコゆうメール」でのお届けに変更となります。

ヤマト運輸㈱の預かりから３日目以降の配達となり、加えまして配達日が平日のみと変更になりますので、これまでの会誌到着より遅延が生じますが、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

2018年より情報委員会に所属してから４期目となり、情報委員会副委員長を拝命することとなりました。思い起こすこと、2018年９月６日には「北海道胆振東部地震」が発生。北海道全域がブラックアウトとなり、未だかつて経験したことのない災害に遭うこととなりました。その後2019年～2021年にかけて「新型コロナウイルス感染症」の猛威により全道大会は中止となるなど、会誌構成に苦慮したことが思い出されます。2024年も幕を開け、新年早々「能登半島地震」が発生するなど暗いニュースばかりですが、建築士として皆さまのお役に立てるよう精進していく所存です。２年間どうぞよろしくお願いいたします。　情報委員会 副委員長　村山　賢司（中標津支部）

情報委員会委員長／前田　繁
副委員長／村山　賢司・立花智亜喜
委　員／岩浪　治郎・角張　隆昌
津山　浩・奈良岡　修

北海道建築士　No.319号
印刷　令和６年２月／発行　令和６年３月
編集・発行　一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西５丁目11番地 大五ビル
電話　(011)２５１－６０７６番
URL　https://www.h-ab.com/
印　刷　株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水２条１丁目
電話　(011)８１１－７１５１番